急ぎ過ぎだよ 人類は。
ゆるやかなネットワークを目指す

IT より 遅いてェ

雑報 縄文

いろんな考えがあるから 面白い
いろんな人がいるから 楽しい

No. 640
2023年1月

編集・発行 鈴木厚正
〒266-0005 千葉市緑区誉田町2-21-359
T&F 043-291-2917

も・く・じ

	ページ
● 縄文時代に戦争はなかった？	2
● け・い・じ・ば・ん	4
● 正月の節供	5
● 「人類の起源」ほか	6
● お便りから	10
● 山仕事（12月大平、倒木整理）	18
● 乾徳山	22
● 桐生悠々がわらう	24
● 初日の出最速は？	26

※掲示板は4ページに。

戦争でなく

平和を
平和を
平和を
平和を
平和を
平和を
平和を
平和を。

（政府は、マイナンバーカードと交通系カードを連携すれば割引く方針。これで個人の行動履歴はまる見えに。ぼくは、かみさんに管理されるのはともかく、お上に監視されるのは真っ平だ。）

▲2名

12月26日現在の
会員数210名

この見本誌をみて新たに「読んでみようか」という方は、年会費4,000円を郵便局で 00100-2-20630 「雑報友の会」へ振い込んで下さい。

題字：故佐村隆英和尚（元千葉県長柄町本光寺住職）
カット：故泉ゆきをさん（にっぽん箱絵の会会長）

印刷機 リソグラフ RZ 330

※この号の切手は冬のグリーティング。

山仕事（12月大平、倒木整理）

初冬、刈り払い機を新調した。これまで使っていたスチールの調子が悪く、修理を頼んでいた近所の店がスチールの扱いをやめるというので、ゼノアに替えた。「いつまで草刈りを続けるつもりか」と言われそうだが、機械より先にぼくがダメになったら、正士さんちに送り猫の手の皆さんに使ってもらうつもり。

ついでにいうと、チェンソーも以前使っていたスチールを、上総里山会の楠本繁会長にミニをいただいたのを機に猫の手に使ってもらうようにしたが、畑Bの消滅や古家の撤去などで使う機会が少なくなった。それで今月の山仕事の折、正士さんちに持参した。

新しい刈り払い機の初仕事は山仕事に出かける前日の12月7日、テニス仲間の娘さんの家の庭。面積は小さいが40度近い斜面だ。

なぜやるかというと、ぼくには魂胆がある。ぼくは病院に行かない。かかりつけ医もいない。そんなぼくがポックリ逝ったらどうなるか。多分、司法解剖は免がれまい。解剖されたら痛いだろう。そこで家族が大病院の副院長だったり看護師長だったりするKさんに、いざという時は適当に死亡診断書を書いてもらおうという訳だ。

二度目の出番は、函館に出かける前日の12月14日。千葉県長柄（ながら）町の房総浮世絵美術館へ。往復45kmの道をホンダのカブ50ccに刈り払い機をのせてヨタヨタと出かけた。津島寿夫館長は不在だったが、いつも担当している崖の部分を90分かけて終り、近くの田んぼへ。5～6年前イノシシに荒らされるまで使わせてもらっていたところだ。今は使わないが「ちゃ奉公」のつもり。

終って鶴岡のぶ子さんのお宅へ。今秋、ながく認知症にかかっていた連れあいを亡くし、いまは一人住まい。ぼくの顔をみると「よく来てくれた」と大喜び。御年94歳だが姿勢はまっすぐ、至って健康だ。それはよいが、20分ほど滞在の間に、ぼくの年齢など同じことを2～3度きかれたのは、これまでになかった。

12月8日（木）、快晴。富士山が白く輝やく。宝永火口の周辺だけ土が顔を出している。三宅伊部子さんが敷地駅に先着し、正士、久米さんと共に迎えてくれた。

まず、深澤明男・富士代さんの豊岡農園へ。今回もミカンを沢山いただいた。ぼくは、ミカンがある時は飲料水を飲まない。

深澤ご夫妻

買い物を済ませ、下沢の倒木現場を下見し、夕暮れ近く、東垂れでちょっぴり草刈り。

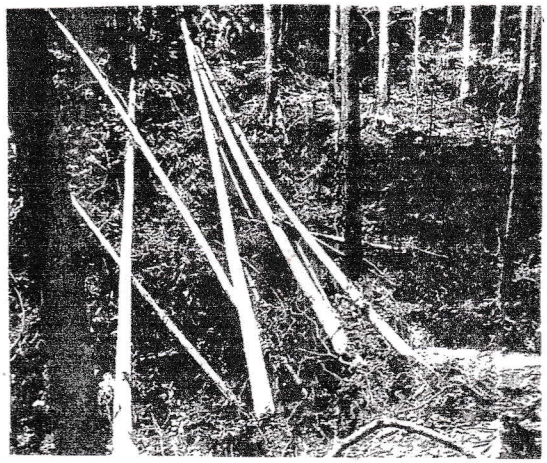
（夕）サツマイモと鳥肉のタッカルビ風、大根のけんちん煮、アジの刺し身、蒸しタラのネギだれ、シラス干しと大根おろし、久米さんが育てたニラの40とじに正士さんの手打ちそばと久米さんのだしとかさしで。

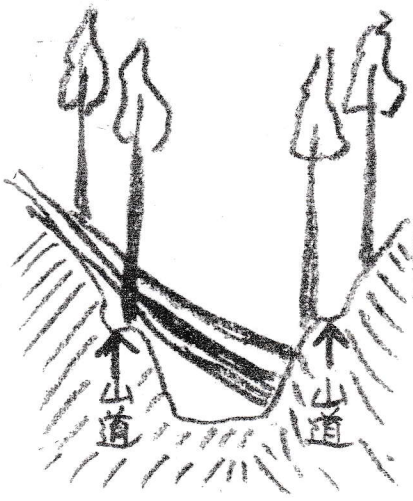
この夜、久米さんが「衛星が見える」というので17:22頃、庭で空を見上げる。ゆっくりと光が夜空を渡るのが見えた。

食後、珍しくお母さんが参加して合唱。よいことだ。

12月9日(金)、快晴。この日、久米さんは所用で不参加。代わり?に久しぶりの竹中さんと若林さんが参加。以前見えた静岡県立農林環境専門職大学の中山正典准教授が学生一人を伴って見える。正士さんは、大阪のお得意から大量のお米の注文に対応するため、作業は不参加。水窪の守屋千づる、熊谷道子さんが正士さんを手伝うことに。

今秋の豪雨で根を洗われたスギが5本、深い沢の反対斜面から倒れかかっている。



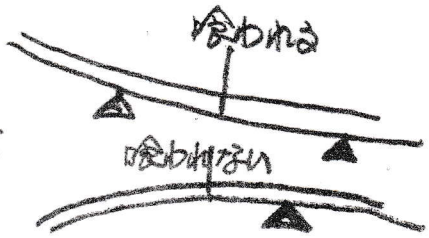


お米の小袋詰めを手伝う、守屋、熊谷さん。

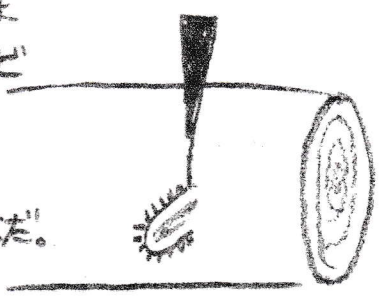
原田・山崎・若林組と竹中・ぼく組に分かれて作業にかかる。まず、山道から上にかかった部分を処理する。何かにつかまらないと上がれないほどの傾斜だ。切断しても動きそうもない部分はそのまま寝かせ、切ると滑り落ちる恐れのある部分は、扱いやすい長さに切って安定するよう置く。さらに危ない部分は、下右の写真のように一人がトビ口で引っ張りながら切断する。大学のお二人は、その様子を写真にとり、記録している。

作業の写真は、学生さんが。

土に接しているので、石を切ってチェンソーの刃を痛めないよう気をつける。木のたわみ具合に注意しているが、1台のチェンソーが木に喰われて抜けなくなった。もう1台が助けに行ったが、ミイラとりがミイラになった。3台目が行ってようやく解放された。



この時になって「ヤ(くさび)」を持ってきていることを思い出した。右のように、チェンソーの刃が木に挟まれて抜けなくなりそうな時は、切断面の上部からクサビをハンマーで打ち込み、切断面を拡げて切り易くする。



昼までに山道から上の部分の処理を終え、昼食に戻る。昼食は、水窪のお二人が用意してくれたものが主体だ。

(昼) おでん(大根、竹輪、昆布、はんぺん、4P)、おから煮(熊谷さんが豆腐を手作りした時の)、あん入りキビ団子(宇屋さん)、レンコンの酢炒め、ズイキ炒め、飯田菜(いいだな:宇屋さんの故郷では野沢菜がうまく育たないので、その代わりに栽培している)、リンゴ、飯田菜の漬物、小豆タテコ(う〜ん、なんと言ったらよいか)。それに原江さんの大根もちにレンコンと牛肉炒め。

食後、三宅さんが帰宅。わずか4時間ほどの滞在だ。それでも、忙しい日が続く中にポッカリあいた休日、どうしても来たかったという。

水窪のお二人も夕方近くに帰宅。車で往復3時間ほどかかる中、ご苦労さま。1月は、初日の19日に来てくださるとのこと。お昼を楽しみにしています。

↑三宅さん

午後も倒木処理の続き。山道の上にかかっている部分を切断し、横たえる。足場の悪いところでは、下の沢に落ちないよう、腰をロープで引いてもらって切る。

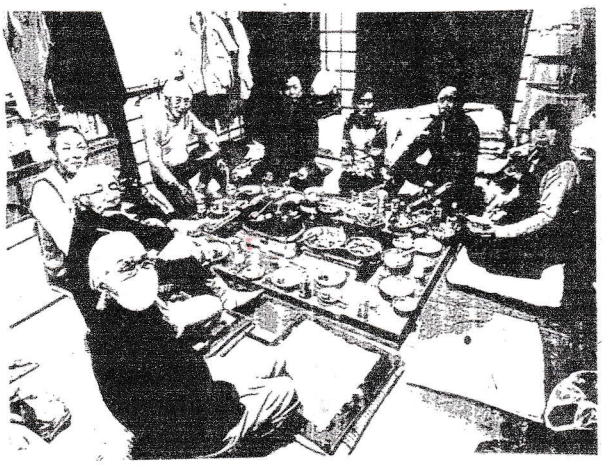
終了後、戻って東垂れの草刈り。暗くなる16:30、どうにか終了。

夕食時、アルコールの入る竹中さんを護送するため久米さんが、そして袴田克己さんも参加。

(夕) 大根ステーキ、なばなの芥子和え、豚入りけんちん汁、久米さんのニンニクでタアサイ炒め、シラスと大根おろし、それに佐藤貞敏さんが送ってくれた宇都宮は正嗣の餃子と正士さんのおそば。

今回、尾上美智子さんから銘酒「なんな泣かせ」、竹中さんから銘酒「開運」をいただく。「なんな泣かせ」ときくと、すぐ山ちゃんがぼくを指さすが、誤解も甚しい。

そして、昨夜に続きこの夜もお母さんが参加して合唱。月2回?のデイサービス行きは渋るお母さんだが、この夜は楽しそう。英ちゃんが「なが生きの秘訣は?」と尋ねると「働くばっかり」。事実、ぼくはほぼ30年前から見ているが、まことによく働くんだった。なんでもできただけに、体が思うように動かないのが口惜しくて仕方がないのだろう。



↑お母さん

12月10日(土)、快晴。山ちゃんは所用で朝帰り。正士さんは写真の整理で、久米さん、英ちゃんとぼくの3人で「向井屋敷(丑さんの茶園跡)の草刈り。草が疲ていて、やりにくいことおびただしい。正士さん、来年は初秋にもう1回刈ろうよ。

そばに家がある青山さん(大工)は、なめるように草を刈っている。何気なく外側に向けて刈っていたら注意された。その青山さんも一人暮らし。娘二人で後継ぎがなく、市役所に「タダでいいから貰って」と言ったら「いらない」と言われたそうだ。丑さんちもついに空家になった。こうして国土は荒れていく。ミサイルばかりこだわってよいのだろうか。

(昼) 伊藤和江さんから送られたパンでオープンサンド、カブと白菜のクリームシチュー。

今年も無事に終った。ありがとう

英ちゃん